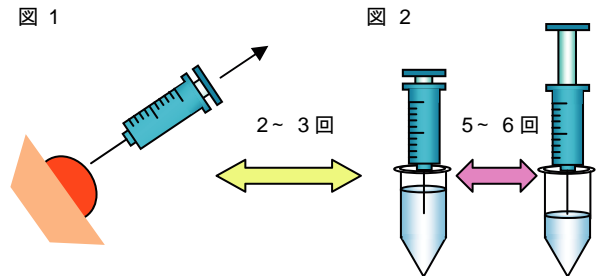


A . 腫瘍病変 (リンパ節等)

(1) 針吸引サンプルを用いる場合

- 1) きれいな容器 (スピッツ管、サンプルチューブ) に 1 ~ 2 の生理食塩水を入れて下さい。
- 2) 23 ~ 21G の注射針を用い、FNA 生検と同様に組織を吸引して下さい (図 1)。
- 3) 針をはずさず、1) の容器の中で生理食塩水を吸引・排出 5 ~ 6 回程度、注射針に残った細胞・組織を洗い流すようにを繰り返して下さい (図 2)。
- 4) 新しい針と注射器で 2)・3 を繰り返し、同じ容器に 2 ~ 3 回分の FNA 生検サンプルを採取して下さい。
- 5) 容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。輸送中の漏れが心配な場合には、パラフィルム等で密封して下さい。
- 6) 冷蔵で保存して下さい。

クロ 表マ KIT



組織・細胞量の目安

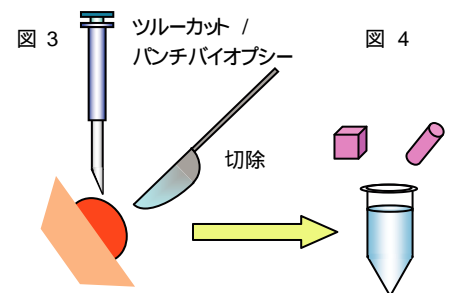
クローナリティー解析・c-ki遺伝子変異検査 : 肉眼で濁りが確認できる程度
細胞表面マーカー解析 T/B セット : 肉眼で明らかに濁りを確認できる程度

注意 : ホルマリンは使用しないで下さい。

(2) ツルーカーット / パンチバイオプシーあるいは切除組織を用いる場合

- 1) きれいな容器 (スピッツ管、サンプルチューブ) に生理食塩水を適量入れて下さい。
- 2) ツルーカーット / パンチバイオプシーにより組織を採取、あるいは切除した組織から組織塊を採取して下さい (図 3)。
- 3) 採取した組織は 1) の容器に入れて下さい (図 4)。細胞表面マーカー解析 T/B セットは、生きた細胞が必要となります。細胞は乾燥により死んでしまいますので、組織が完全に生理食塩水に漬かるようにして下さい。
- 4) 容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。輸送中の漏れが心配な場合には、パラフィルム等で密封して下さい。
- 5) 冷蔵で保存して下さい。

クロ 表マ KIT



組織・細胞量の目安

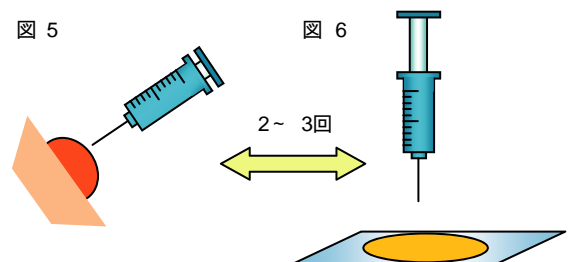
クローナリティー解析・c-ki遺伝子変異検査 : 米粒大
細胞表面マーカー解析 T/B セット : 小豆大

注意 : ホルマリンは使用しないで下さい。

(3) スライドグラスへ吹き付けたサンプルを用いる場合

- 1) スライドグラスを用意して下さい。
- 2) 23 ~ 21G の注射針を用い、FNA 生検と同様に組織を吸引して下さい (図 5)。
- 3) 採取した組織を、細胞診用の塗沫を引く要領で、スライドグラスに吹き付けて下さい (図 6)。
- 4) 組織を吹き付けたスライドグラスは、よく乾燥させて下さい。
- 5) 常温で保存して下さい。

クロ KIT



注意

- 1) スライド標本の固定、染色、封入は検査に影響しません。
- 2) 病理組織標本では、検査できません (ホルマリン固定が検査を阻害) 。
- 3) スライド標本からの検査では検体量が少なく、遺伝子が採りきれない場合があります。また、標本によっては遺伝子が切断され、検査を行っても評価できない場合があります。可能であれば、上記 1) もしくは 2) の方法で採取して下さい。